

内田寛一（うちだかんいち）（1/2）

～歴史地理学の開拓者～

明治21年（1888年）内田重雄の4男として名古屋村名古屋（現在の唐津市鎮西町名護屋）で産声を上げたのが、後に歴史地理学の開拓者といわれた寛一です。

寛一は、名古屋尋常小学校に入学し、4年間の義務教育を終え、親元を離れて寄宿舎生活をしながら唐津中学校（現在の唐津東高等学校）に入学しました。

唐津中学校5年生のとき、寛一の人生に大きな影響を与えるできごとが起りました。明治37年（1904年）に、日本とロシアとの間で行われた日露戦争です。開戦の翌年、玄界灘で行われた海戦での大砲の音を授業中に聞いたと文集に書いています。寛一はこのできごとをきっかけに、世界に目を向けるようになりました。

その後、東京高等師範学校に進み、さらに当時唯一の地理学の専門課程があった京都帝国大学（現在の京都大学）を経て、同大学の大学院を修了し、その後地理学の助手となりました。地理学とは、人類が住む地球の環境がどのようになっているのかを調べ、それがどう人間とかかわっていくかを総合的に研究する学問です。

そして、ドイツの地理学者ハットナーとの出会いが、寛一の将来を決めます。日本アルプスや日高山脈で、小規模ながら氷河の跡が確認されていました。氷河は万年雪が積り、雪の重さから巨大な氷の塊となり、その重みで斜面を下降し、地形を変えてしまうものです。ハットナーは、その氷河調査のため来日し、その案内役を引き受けたのが寛一でした。調査の結果、長野県上高地の梓川河畔で800メートルの低位置で氷河の存在を示す石を発見、これは後に、「ハットナー石」と名づけられました。

これが日本の氷河研究の始まりとなり、学界でも大きな話題となりました。ハットナーの研究方法に影響を受けた寛一は、ますます勉学に励みました。

そして、文部省で小学校の地理の教科書の監修を行い、日本の地理教育の改革につとめました。寛一が目指した西洋の地理学は、地球の自然と人間のつくった文化の関係を研究する「系統地理学」と、地球のそれぞれの地域の特徴を明らかにする「地域地理学」に大きく分けられます。

この2つの地理学の研究は、お互い関連し、経済学、歴史学、生物学、地質学、数学などとも深くかかわって進歩しています。

～2/2へつづく～

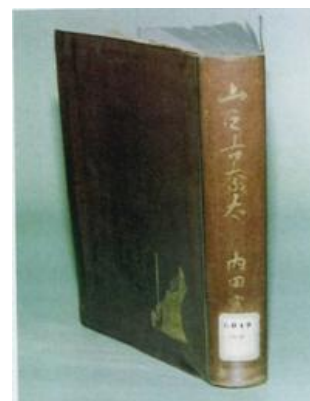
分野 人物

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



内田 寛一
(1888～1969)



寛一の著作「山のこなた」

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html

内田寛一（うちだかんいち）（2/2）

～歴史地理学の開拓者～

～1/2からつづく～

そして寛一は、こうした西洋の地理学をさらに勉強するため、イギリスやドイツに留学しました。帰国後は東京文理大学、東京教育大学、日本大学、国土館大学教授などをつとめ、日本に西洋的な地理学の考え方を広めました。また、江戸時代の農村人口の移り変りの研究や、検地帳や宗門帳など村落に伝わる文献に基づき、当時の地理的状况を調べたりすることで、日本ならではの地理学研究の方法を見つけました。寛一が昭和9年（1934年）に出した「地人相関論」は学会で大きな反響を呼び、また教育論にも熱心で「郷土地理研究」も多くの人々に読まれました。

寛一は、歴史地理学や政治地理学、経済地理学、郷土教育などの分野で優れた研究・実践を続け、優秀な地理学者を多く育てました。

昭和29年（1954年）には日本地理学会会長に就任し、昭和32年（1957年）には、地理学の研究と地理教育に貢献したということで勲二等瑞宝章を受賞しました。

寛一は、昭和44年（1969年）、地理学関係者を始めとする多くの人々に惜しまれ、多数の書籍の中にうもれながら81歳で亡くなりました。

寛一の蔵書の一部は、寛一が創設に向けて中心的な役割を果たした国土館大学文学部地理・環境専攻科に「内田文庫」として所蔵され、名古屋大学や国立歴史民俗博物館などにも所蔵されています。

寛一の研究の成果は、今もわが国の地理学の世界で生き続けているのです。

分野 人物

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など



内田文庫
(国土館大学)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html